

GREEN Rotary-Club



2011-2012年度 テーマ



Reach within to Embrace Humanity

国際ロータリー

「ここの中を見つめよう
博愛を広げるために」

R.I. 会長 カルヤン・バネルジー

地区方針

「心機一軒」

R.I.2720 地区 ガバナー 本田 光廣

熊本グリーンR.C.

「力を合わせよう」

熊本グリーン R.C. 会長 江上 泰弘

■例会日：毎週月曜日 18:30~19:30

■例会場：熊本市城東町4-2
熊本ホテルキャッスル
TEL096-326-3311

■創立：平成元年2月22日

■会長：江上 泰弘

■幹事：松山 優喜

■会報担当：河野 景治

■事務所：熊本市城東町4-2
熊本ホテルキャッスル内
TEL096-354-4521
FAX096-354-4053
E-mail:kgrc@io.ocn.ne.jp国際ロータリー
第2720地区

熊本グリーンロータリー・クラブ週報

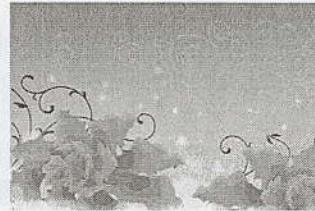
【2012年5月28日】

第1047回

2011-2012年度 第41回

【例会】

1. 開会・点鐘 18:30



2. 食事と交歓

来訪者の紹介

- ◆ 江上夫人、中島夫人、山下(佳)夫人
- ◆ 栗山さんご家族、長野さんご家族、葉さんご家族、山下(佳)さんご家族

友情の握手

会長スピーチ

(江上 泰弘 会長)

今は

本日は、例会の会場をここ亭ノ元に移して行います。ホタルの観賞会が目的ですが、この西浦川のホタルの育成支援は、前年度の松村会長の時に社会奉仕の一つとして始まりました。この近くの地域には他にもホタルの育成活動をされている地区があるようですが、私たちの支援の資金でホタルの育成活動が全て賄えることはありませんが、有効に活用して頂き、末永くホタルの飛びかう里を守っていただきたいと思います。

ホタルが飛び交うところは、まず水がきれいで餌になるカワニナが居なくてはなりません。と言う事は、自然環境が豊かなところです。川岸がブロックで固めてあつたり、生活排水がそのまま流れ出るような所には、ホタルは住めません。ホタルの飛び交う素晴らしい光景を多くの方に見ていただいて、自然の大切さを知っていただくことがこの奉仕活動の目

地ではないかと思います。

私の住んでいる校区内でもホタルを育成しようと言う話があるようです。おそらくこの地域のホタルを見られたからだと思います。ホタルを育成すると言う事は、自然を取り戻すという事です。私たちの小さな支援が、自然を取り戻そうとする活動の支えの支援であったと思うと大成功だったと思います。

今日は、天気にも恵まれました 8時頃が見ごろとのことです。甘い水を用意して楽しみましょう。

幹事報告

(松山 優喜 幹事)

■ 例会変更

● 熊本りんどうRC

5月23(木)の例会は、夜例会のため、同日19:00より居酒屋「鹽(しお)」にて行います。

● 熊本'05福祉RC

6月5日(火)の例会は、第2分区7クラブ合同IMのため、6月2日(土)14:00より阿蘇ホテル(阿蘇市内牧)にて行います。

■ 例会取止め

下記の例会は、定款第6条第1節に基づき、取り止めます。

熊本城東RC:6月25日(月)

熊本'05福祉RC:6月26日(火)

卓話
予定

- 6/4 「ローター・アクト現況報告と今後」
★熊本グリーンローター・アクトと合同例会
- 6/11 「次年度第2回クラブ協議会」
★例会時間 20:30迄延長

- 6/18 会長・会長エレクト・副会長・幹事・S. A. A. と6常任委員長の退任挨拶

[熊本グリーンR.C.ホームページアドレス] <http://www.kg-rc.com/>

グリーン・クラブの例会日がきても、出席するかどうか決めるには及びません。というのは、私にとって出席は決まりきった事だからです。これは、ロータリーに入会したとき受入れた義務の一つです。

出席報告

山下隆生クラブ管理運営委員長

	会員総数	26名	出席率	
5月28日	出席免除会員数	2名	50.00%	
	計算上会員数	24名		
	出席会員数	12名		
5月14日	前回の出席会員数	23名	96.00%	
	メークアップ数	1名		
	修正出席会員数	24名		
メークアップ済み会員及びメークアップ訪問先				
・5/17 熊本北RC 大友君				

委員会報告

<じゃがいも掘り大会の案内>

報告者：農業委員 松村 秀逸 会員

6月3日(日)13:30～15:30に「じゃがいも掘り」を致しますので、ご家族の皆さんも是非御参加頂き「新ジャガ」をお持ち帰り下さい。



ホタル観賞例会

「ホタル観賞」を場所を移動して行いました。瑞巌寺公園付近の川沿いを8時位から皆でそぞろ歩いているとホタルの幻想的な光が少しずつ増えてゆき、8時30分くらいになるとすごく多くのホタルが乱舞し、皆、こんなに多くのホタルを見たのは初めてと言われていました。毎年、増えて来ているという感じですので、熊本グリーンRCの「ホタル保護育成資金」も少しは環境保護にお役に立っているのかなと思いました。又、ボランティアで整備や見回りをされている西里校区の方々には頭が下がる思いでした。



HOW TO… (ハウツーの紹介)

引き継ぎを円滑に行うには

確かな引継計画で、クラブと地区の次期役員のスタートを支援

500人の地区ガバナーや34,000人のクラブ会長、そして多数の委員会委員長が、あと数ヶ月で任期を終えようとしています。これらのリーダーは、後任者と密接に協力して、今年度に立てた計画や築いた功績を、次ロータリー年度にも継続させていくことが重要です。

綿密に計画して引き継ぎを行うことで、継続性が保たれるだけでなく、新リーダーが効率よいスタートを切ることができます。例えば、タコマ・ナロウズ・ロータリー・クラブ（米国ワシントン州）のスコット・セイツ会長の引継計画は1年間にわたるものでした。

「何か予期せぬ出来事があれば、それを後任者にも知らせるようにしてきました」とセイツ氏。「重要な締切日や連絡先、毎月のテーマ、予定日が記されたカレンダーを作り、これを使って次年度の計画を立てるよう後任者に勧めました」

以下は、引き継ぎを円滑に行うためのそのほかのヒントです。

- 新年度が始まる少なくとも1ヶ月前に、次期リーダーのための「実地研修」を行う。
- 重要書類を、手渡しあるいは電子形式で渡す。
- 今年度の活動、責務、課題などの概要を、後任者に直接伝え、また書面にして渡す。
- 新年度を通じて、後任者の質問に答えられるようにする。
- 任期終了後の問い合わせは、すべて後任者に対応してもらう。

専門家に聞く ロータリーが補助金モデルを変更する理由

ロータリー公共イメージ・コーディネーターで元地区ガバナーのハワード・トン氏が、2013年7月から全面的に実施されるロータリー財団の新補助金モデルの利点について語ってくれました

新しい補助金モデルには多くの利点があります。新地区補助金は、クラブが財団の使命に沿って、ロータリー財団の補助金を地域社会での奉仕に直接活用できるようにします。グローバル補助金は、クラブや地区が協力して大規模な奉仕プロジェクトを取り組むことを可能にする一方、パッケージ・グラントは、財団の戦略パートナーと協力する機会をロータリアンに提供します。

新補助金モデルの利点はこのほかにもあります。

簡素化されたプロセス：ロータリアンは、補助金の申請、受領、進捗状況の確認、手続きの完了をすべてオンラインで行うことができます。これは、新モデルの特徴である効率性です。

協力の機会の増加：地区とクラブは、専門知識を共有し、重要な課題に協力して取り組むよう呼びかけられています。例えば、第9940地区（ニュージーランド）と第9550地区（オーストラリアの一部と東ティモール）による試験プロジェクトは、数多くの住民が疾病により命を落としている東ティモールで、人々の生活を改善することを目的としています。

資金管理の改善：補助金の覚書を実行することにより、手続きと報告が正しく行われ、ベストプラクティスが確実に実践されるようになります。

寄付の増加：寄付者が活動の成果を直接目にすれば、その人が再び寄付を行う可能性が高まります。例えば、第9940地区（ニュージーランド）では、未来の夢試験段階に参加して以来、財団への寄付が40パーセントも増加しました。

成果の拡大:ロータリアンは、重点分野に取り組む持続可能な国際的プロジェクトに参加する機会を見つけることができます。例えば、1クラブがグローバル補助金を使って、医療研修を提供する職業研修チームを海外に派遣した後、そのチーム受入側のクラブが、自分たちの医療チームをさらなる研修のために派遣側のクラブに送るということが可能です。

ロータリー財団の未来の夢計画の新補助金モデルは、現在、試験地区で試験的に実施されており、2013年7月から全地区で実施される予定です。



地区のコーナー

若い地区指導者のために道を開く

次世代のリーダーを引きつけるためのヒントを地区ガバナー・エレクトが紹介

ロータリーに入会する若い世代の専門職従事者が増える中、これらの会員の活力と熱意が地区レベルでも求められています。しかし、過密なスケジュールや家庭の事情により、地区レベルでの参加が難しくなっているのが現状です。そこで、新世代を次世代の地区指導者に変えるためのアイデアをご紹介します。

テクノロジー:「テクノロジーを活用して、時間をうまく管理する必要があります」と話すのは、第5450地区(米国コロラド州北部)のマイク・クリングビール・ガバナー・エレクトです。クリングビールさんは、ソーシャルメディア、地区のウェブサイト、ビデオ会議を使って、地区内のクラブと連絡を取り合えるよう計画しています。

「オンライン会議によって、3時間かかる仕事を1時間で終えることができます。また、移動時間も節約できます」とクリングビールさん。「簡単に参加できるようにすれば、私のような人々がもっとボランティアに協力できるでしょう」



地区ガバナー・エレクトの
ジータ・マネクさんとマイク・クリングビールさん

指導:第9200地区(エリトリア、エチオピア、ケニア、タンザニア、ウガンダ)の次期ガバナー、ジータ・マネクさんは、若い地区指導者の関心をつかむ最善の方法の一つは、青少年に指導者となる機会を提供することだと考えます。

2011年、マネクさんが所属するムサイガ・ロータリー・クラブでは、21歳のローター・アクター、カルビン・ジョディシさんを、チュー・リッヒで開催された「ワン・ヤング・ワールド・サミット」にケニア代表として送りました。

「この若い青年が、将来、ロータリーのリーダーになれると思ったのです」とマネクさん。「今、支援することで、将来、ロータリアンとなり、ゆくゆくは地区指導者となるよう後押しできます」

協力:クリングビールさんは、地区ガバナーとしての自分の役割を進行役のようなものと考えます。「プロジェクトや活動で協力できるよう、人々を団結させたいと思っています」

例えば、クリングビールさんは、ロータリー・クラブの役員と一緒に、ローター・アクターやインターラクトのクラブ役員の就任式を行おうと計画しています。「これを機会に、プロジェクトや相互の協力方法について、話し合ってくれることを願っています」

そのほかのヒントは、「Re-energize Your Club: Best Practices to Engage Today's Young Professionals(若い会員の参加によりクラブを活性化)」のウェビナー(英語)をご参照ください。